

令和4年度普及活動成果集



共に歩み、切り拓く京築農業の未来

 福岡県京築普及指導センター

令和5年3月

表紙写真の説明

夏秋ナスの現地講習会

新規就農者のつどい

Webを活用した
法人化に向けた専門家相談会

はじめに

京築地域の農業者並びに関係機関の皆様には、日頃より普及指導センターの活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝を申し上げます。

令和4年は、新型コロナウイルス感染症による影響が長引く中、ロシアによるウクライナ侵攻、急激な円安で原油や肥料を始めとする資材高騰もあり、農業者の皆様にとっても厳しい一年でした。

このような中、普及指導センターでは、『共に歩み、切り拓く京築農業の未来』をスローガンに2つのプロジェクトと8つの係別計画を掲げ京築農業の屋台骨となる人づくりや、園芸産地の維持拡大等に取り組みました。

人づくりでは、新規就農者の経営確立を支援するためSNSを活用した情報発信等の新たな取り組みを始めました。また、園芸産地の維持拡大では、環境測定装置を活用したイチゴ栽培管理技術の確立や、果樹の担い手機能を持った会社組織の設立を支援しました。

本成果集では、これらの普及活動成果や管内農業・農村の動き、現地実証・展示ほの結果を掲載しております。ぜひご一読の上、産地振興の参考としていただければ幸いです。

普及指導センターは、今後とも京築地域の農業発展のため、地域に出向き皆様と一緒に考え行動してまいりますので、ご理解ご協力をお願いします。

令和5年3月

行橋農林事務所 京築普及指導センター

センター長 高橋 克典

目次

はじめに
目次

1 普及活動の主な成果

新規就農者の確保支援	1
元気な農業の町・築上町	2
水田農業維持・発展に向けた担い手支援	3
イチゴの生産力と担い手の強化	4
夏秋ナスの担い手と生産力強化	5
果樹の担い手確保支援機能を持った部会組織の育成	6
ホオズキ産地の維持と儲かるケイトウづくり	7
酪農経営の安定化	8

2 管内の動き（トピックス）

.....	9
-------	---

3 普及指導員調査研究結果の概要

.....	14
-------	----

4 現地実証・展示ほ結果の概要

.....	15
-------	----

5 各種表彰の紹介（国、県）

.....	17
-------	----

6 参考資料

(1) 令和4年の気象および農業生産の概要	18
(2) 現地活動情報一覧	22
(3) 普及指導センターの活動体制	24

新規就農者の確保支援 —京築地域に若い活力の導入を—

■課題化の背景

全国的に農業者の高齢化による担い手の減少が深刻な問題となっています。

京築地域も担い手の減少が問題となる中、産地や農村の維持・発展のため、新規就農者の確保と定着に取り組みました。

■活動内容

1 新規就農者の確保

「就農・就業相談会in京築」を、管内の関係機関で組織する京築地域農業・農村活性化協議会担い手部会の主催で開催しました。

開催にあたって市町やJAの広報誌やホームページを活用し、県内外に広く周知するとともに農業技術支援センター、農業高校、農業大学校等にも周知しました。

2 新規就農者の定着支援

就農後3年以内の新規就農者を対象に営農基礎講座および新規就農者のつどい(新規就農者とベテラン農業者との研修交流会)を開催し、就農後の定着促進に向けた支援を行いました。

また、新たにSNSによる新規就農者への情報発信を行いました。

■主な成果

1 新規就農者の確保

就農相談会には11名の申し込みがあり、関係機関と共に希望する就農内容等についての相談を受けました。また、就農希望者には個別に経営計画作成支援や栽培技術指導を行い、本年度は15名が新たに就農しました。

2 新規就農者の定着支援

営農基礎講座は、栽培技術および複式簿記とパソコン簿記の習得を目指して開催しました。

新規就農者のつどいでは、女性農村アドバイザー2名から農業経営の取り組みについて講話をいただき、指導・青年農業士4名も体験談を交えながら助言を行うことで、新規就農者の意欲向上を図りました。

SNSによる情報発信には7名が登録し、研修会等の案内や作物の生育概況等の情報提供を行っています。



営農基礎講座(簿記)



営農基礎講座(果樹)



新規就農者のつどい

■今後の取組み

就農相談会等の取組みを継続し、京築地域の新規就農者の確保を図るとともに、経営力向上に向けた継続的な支援を行います。

(地域振興課・園芸畜産課)

元気な農業の町・築上町

—持続する地域農業へ—

■課題化の背景

築上町ではレタス、ブロッコリーが栽培されていますが、価格低迷で農業所得が減少し、これらの補完品目が求められています。さらに、令和5年に町内で開店する農産物直売所を軸とした地域振興のため、直売所へ出荷する園芸品目を増やすこと、農産物の端境期対策、園芸農家の増加が必要となっています。

また、築上町には水田農業の担い手として24の集落営農組織があり、多くが高齢化や労力不足の問題を抱えています。このため永続的な水田の担い手確保が急務となっています。

■活動内容

現在作付けされている野菜と作業が重ならないよう、補完品目の候補として白ネギ、ゴボウを選びました。これらの野菜は出荷調製作業の時間が長いため、町内の福祉事業所やJA全農ふくれんによる調製作業委託を組み込んだ経営モデルを検討しました。併せて端境期対策として、栽培時期が調整できるタマネギで現地検討を行いました。また園芸農家を増やすことを目的に、栽培希望者説明会や園芸振興大会を開催しました。

集落営農については、担い手確保に向けた支援の他、継続的な支援方策を洗い出すために関係機関と実態調査を行い、町内10組織の現状や課題、優良事例を確認しました。

■主な成果

白ネギでは、調製作業の実演会を行う等、町内の福祉事業所と協議を重ね、作業委託ができました。ゴボウは、畝立て播種作業の省力技術の導入や、JA全農ふくれんへの調製作業の委託で、労力負担などを大幅に軽減しました。これらにより白ネギ、ゴボウが経営モデルの中に組み込みました。

タマネギは、実証試験により出荷時期を調整する栽培技術を確立しました。また、野菜栽培希望者説明会や園芸振興大会の結果、新たに9戸が園芸作物に取り組み始めました。

集落営農では話し合いを進めた結果、2組織で新たな担い手が確保できました。また10組織への実態調査の結果、役員やオペレーター等の労力不足の原因は組織ごとに異なることが判明しました。これらの結果は、町が策定する集落営農支援方針に活用されることになりました。



白ネギ調製作業実演会



集落営農組織実態調査

■今後の取り組み

補完品目を導入する生産者を増やし、露地野菜経営の改善に取り組みます。また、集落営農支援方針を元に関係機関と連携して水田農業の担い手確保に取り組んでいきます。

(園芸畜産課・地域振興課)

水田農業維持・発展に向けた担い手支援

—集落営農組織の人材確保・育成に主眼を置いて—

■課題化の背景

京築地域では94の集落営農組織が設立され、現在ではその半数以上が法人経営に移行し、水田農業の主要な担い手として活動しています。

しかし、近年、高齢化により組織を支える役員・オペレーターの人材が不足し、組織の運営が年々厳しくなっています。これに対応すべく人材確保・育成の取組みを強化する組織や個別大規模経営体と連携する組織等がでてきており、これらの支援が急務となっています。

■活動内容

集落営農組織の経営・運営の強化を目的に、人材確保に関する将来ビジョン策定を支援しました。また、組織間や個別大規模経営体等の担い手との連携について、現状把握と関係機関の支援体制整備に努めました。

1 人材確保に関する将来ビジョン策定支援

人材確保・育成に視点をのいた将来ビジョンの必要性を説明し、策定支援を行いました。

2 担い手間連携による経営維持・発展支援

個別大規模経営体を対象にアンケートを行い、農作業の受委託の状況を把握しました。

また、各市町との連絡協議会の中で、集落営農組織の人材不足の現状や担い手との連携の状況について情報共有することで、支援体制を整備しました。



将来ビジョン検討

■主な成果

4つの集落営農組織が人材確保に関する将来ビジョンを新たに策定しました。また、集落営農組織の人材確保に向け、関係機関と情報共有をすることで、新たに4市町で支援体制が整備でき、個別大規模農家と集落営農法人の連携が1か所実施できるようになりました。

■今後の取組み

今後も集落営農組織で人材確保・育成に向けた「将来ビジョン」の策定を呼びかけ、担い手不足の対応に取り組みます。

(地域振興課 水田農業係)

1 普及活動の主な成果

イチゴの生産力と担い手の強化

—産地の維持と担い手(20~50歳程度)の経営安定に向けて—

■課題化の背景

イチゴは京築地域の主要品目で、毎年、新規就農者が参入しています。しかし、JA福岡京築いちご部会では高齢化が進み、作付面積や出荷量の減少等の課題を抱えています。

そこで、産地の維持と担い手の経営安定を目的に、個々の栽培技術の向上を支援しました。

■活動内容

1 産地全体の強化

新規就農者や担い手が、基礎的な知識や高収量者の技術を習得するために、「あまおう」栽培の管理ポイントや栽培の考え方についての資料「京築版あまおう栽培の手引き」を作成しました。

2 担い手の強化

産地の維持に向け、担い手を中心に目標単収を設定し、目標を達成するための課題を個別に洗い出し、それを克服するための支援を行いました。また、環境測定装置を活用したモニタリングによる収量向上の研修会を開催しました。

■主な成果

1 産地全体の強化

京築版あまおう栽培の手引きには、多くの新規就農者が疑問に感じる作業の手順を示した「作業マニュアル」や、ベテラン生産者も参考になる「管内の高収量者の管理」等を収録し、早期の技術習得に寄与しました(図1)。

2 担い手の強化

環境測定の重要性をあらためて認識し、生産者間でデータを比較しながら環境制御技術について理解を深め、生産者毎の栽培管理を改善したことで、単収が約3,400kg/10a(R1)から3,831kg/10a(R4)へと、約400kg/10a向上しました(図2)。

■今後の取組み

今後も産地の維持や担い手の経営安定に向け、継続的な支援を行っていきます。

3-8. 作業マニュアル：収穫・調製作業



図1 京築版あまおう栽培の手引き(作業マニュアル編)

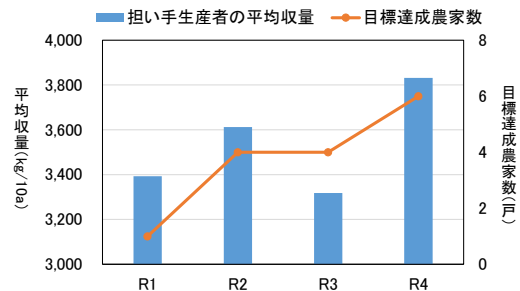


図2 担い手の収量と目標達成農家数

(園芸畜産課 野菜係)

夏秋ナスの担い手と生産力強化

■課題化の背景

夏秋ナスは、JA福岡京築と普及指導センターが連携して新たな生産者を募集したことで、平成30年度から令和3年度までに24戸が栽培を始めました。そのため、栽培経験が浅い生産者の栽培技術向上が必要でした。

また、令和3年度から部会の栽培品種が「大豊」から「筑陽」へ変わったため、品種に合わせた栽培方法が求められました。

そこで、新規生産者の栽培技術早期習得と「筑陽」の栽培技術の確立に取り組みました。

■活動内容

1 新規生産者の技術向上

JA福岡京築夏秋ナス部会の担い手として選定した新規生産者を対象に個別面談を実施し、栽培上の課題の洗い出しと対策の検討を行い、各人の目標単収を設定しました。また、個別巡回指導および高収量者ほ場における現地栽培講習会を行い、栽培技術向上に向けた支援をしました。

2 「筑陽」に合わせた栽培方法の確立

「筑陽」で高収量を確保した生産者と平均的な収量の生産者の栽培管理を比較し、適切な栽培管理方法を確立しました。併せて、新規肥料の現地適応性を検証し、収量安定に効果的な施肥設計を検討しました。

■主な成果

1 新規生産者の技術向上

部会の担い手として選定した7人に対し、個別面談でそれぞれ設定した課題解決に取り組みました。個別巡回指導や現地栽培講習会を通じ栽培技術が向上したことで、さらに適切な管理ができるようになり、5名の生産者が目標単収を達成しました。また、栽培が終わった後も、今作の振り返りと次作の栽培方法について個別面談したことで、さらなる単収向上への意識が高まりました。

2 「筑陽」に合わせた栽培方法の確立

安定した収量を確保するためにポイントとなる管理方法を明らかにするとともに、収量安定に効果的な肥料を使った施肥設計を作成しました。

■今後の取組み

今後も新規生産者の早期栽培技術向上や産地の維持・拡大に向け、継続的な支援を行っていきます。



現地栽培講習会

(園芸畜産課 野菜係)

1 普及活動の主な成果

果樹の担い手確保支援機能を持った部会組織の育成

■課題化の背景

J A福岡京築新田原果樹部会では、平成28年に高齢生産者の作業支援を目的に、果樹サポート部を設立しました。設立当初は、せん定作業が主でしたが、次第に防除等他の作業も依頼されるようになりました。また、新規就農者の支援や園地流動化への対応等も求められるようになり、組織体制の強化が必要となってきました。

■活動内容

1 組織体制強化に向けた合意形成

果樹サポート部は任意団体であり、作業支援はできましたが園地の流動化する際に樹園地を借り受けることができませんでした。さらに、新規就農者を支援するため、雇用できないか等の要望も出てきたため、サポート部の法人化を提案し、その合意形成に向け、部会の運営委員会で助言しました。

2 法人化に向けた手続き支援

部会の総会で法人化が決議された後、部会員にアンケート調査を行い、将来ビジョンの作成を支援しました。また、農業経営者総合サポート事業や社会保険労務士との相談会事業を活用し専門家相談会を開催しました。

■主な成果

運営委員会で協議された後、総会でサポート部の法人化が決議されました。また、決議後は専門家相談会の開催により法人組織の形態、組織機構や労務管理方法について検討が進みました。そして、果樹の担い手確保支援機能を持った法人として「株式会社ふるさぼ新田原」が令和5年3月に設立されました。



We bでの労務相談



専門家相談会

■今後の取組み

法人設立後の経営が早期に黒字化できるように今後も支援します。また、樹園地を借り受けて経営する際、イチジクでは収穫・出荷作業に外部からの新たな労働力が必要となるため、雇用導入や農福連携等についても関係機関と検討を進めていきます。

(園芸畜産課 果樹係)

ホオズキ産地の維持と儲かるケイトウづくり

■課題化の背景

京築地域は露地主体の花き産地であり、特にホオズキやケイトウの生産が盛んです。

ホオズキの出荷量は、病害の発生や生産者の高齢化等で年々減少傾向です。このため、病害防止・品質向上技術に加え、新たな担い手の確保を目的に、これまで栽培適地とされていなかった平地や、施設を活用した栽培技術の確立が求められています。

ケイトウは、生産者間で平均単収と品質にバラツキがあるため、育苗方法や肥培管理技術の確立が課題となっています。

■活動内容

ホオズキでは、白絹病対策として土壌消毒の導入、着色安定技術としてエスレル散布前の摘芯処理およびエスレル散布時での土壌水分の保持といった生産安定技術を推進しました。また、白絹病菌の持ち込み回避や芽出し作業が不要となる挿し芽苗の利用に注目し、施設での栽培実証試験を行いました。

ケイトウでは、新規生産者にも理解しやすいように生育経過動画等を作成し、防除や液肥散布等のタイミングを明確にしました。また、JA担当者と連携を密にしてJA共同育苗での良質苗供給体制の確立に努めました。

■主な成果

ホオズキでは、生産安定技術の普及により草丈、着色ともに高品質なホオズキが生産されました。また、挿し芽苗を用いた施設栽培でも良好な結果となりました。これらの活動を通じ、新たに4名の生産者が確保できました。

ケイトウでは、良質苗の供給や現地巡回指導により品質が向上し、赤色品種「麗炎」の令和4年の秀品率は昨年の32%から42%に向上し、販売単価は1本あたり約10円向上しました。そして、これまでの取り組みを、栽培管理マニュアル、育苗管理マニュアルとしてまとめました。



施設での挿し芽苗ホオズキ栽培



露地ケイトウ栽培

■今後の取り組み

ホオズキでは、挿し芽苗施設栽培マニュアルを作成し、短いほ場占有期間という利点を活かした冬春施設野菜等との複合体系を確立し、新たな担い手確保につなげていきます。

ケイトウでは、栽培管理マニュアルや育苗管理マニュアルを活用し、新規生産者の確保を強化していきます。

(園芸畜産課 花き畜産係)

酪農経営の安定化

■課題化の背景

京築地域の酪農は畜産経営体の半数を占める畜産振興上重要な部門で、経営体ごとの中長期的な経営計画に沿った継続的支援が必要です。具体的には、周産期（分娩前後）対策、繁殖対策、暑熱対策を推進し、疾病廃用牛の減少と生乳生産量の増加を目標とした支援活動を、ふくおか県酪農業協同組合および県関係機関と共に行うことが求められています。さらに、畜産農家全体に対し、今までに経験したことがない飼料・資材価格高騰への対策が緊急に求められています。

■活動内容

上記の各対策を継続するとともに、自給飼料確保やその給与方法への支援に努めました。具体的には、新たにWCS用稲や子実用とうもろこしの栽培に取り組む生産者への栽培技術支援や、自給飼料給与量を増やした飼料給与法およびコストを低下させた飼養体系への変更等に対し、牛の状態を確認しながら綿密な支援を行いました。

■主な成果

WCS用稲では新たに集約された8haの栽培が実現し、順調に収穫ができました。

子実用とうもろこしの試作栽培では、坪刈収量1t/10aの高収量が得られ、今後の面積拡大への手応えをつかみました。

稲WCS等の自給飼料給与量の増加や給与体系自体の変更等については、従来の給与方法からの変更による生産成績低下のリスクを、最小限に抑えることができました。



WCS用稲の収穫



子実用とうもろこしの収穫

■今後の取組み

引き続き関係機関と共に、各農家の課題や方向性の把握と共有を進め、有効な改善提案を行うことで、酪農を含めた畜産経営の安定化を図っていきます。

(園芸畜産課 花き畜産係、地域振興課水田農業係)

行橋市の大田完治氏が公益社団法人大日本農会 令和4年度農事

功績者表彰にて、農事功労者緑白綬有功章を受賞

行橋市の大田完治氏が、令和4年11月17日に公益社団法人大日本農会から緑白綬有功章を授与されました。今回授与された緑白綬有功章は、農業改良の奨励または実行上顕著な功績をあげ、地域農業の発展に貢献するとともに、農業経営で活躍している方が対象で、全国で50名が受章されました。

大田氏は、行橋市で水稲、麦、モモ、イチジクを栽培する土地利用型を中心とした経営を行っています。規模拡大に伴い作型分散を図るため、水稲は主食用米、WC S用稲、飼料用米と作付け品目を増やし、加えて大型トラクター、田植機等の導入により、効率化を図る等経営改善を行いながら産地の維持に貢献してきました。

さらに、18年にわたり指導農業士として活躍し、新規就農希望者、農業大学の学生の受入れや地域の農業関係の要職を務める等、地域農業の発展に尽力したことが、高く評価されました。



受賞した大田氏

第50回(令和3年度)全国豆類経営改善共励会でみやこ町の農事組合

法人上久保営農組合が農林水産省農産局長賞を受賞

第50回(令和3年度)全国豆類経営改善共励会大豆集団の部において、みやこ町の農事組合法人上久保営農組合が農林水産省農産局長賞を受賞しました。

当法人は、みやこ町で長年にわたって麦・大豆の栽培に取り組んでおり、令和3年産大豆は8月の大雨や9月中旬以降の乾燥等の悪条件の中で、収量は150kg/10a以上となり、JA平均単収の2倍以上を達成しました。本暗きよがない条件不利なほ場で、いち早く部分浅耕一工程播種を取り入れて適期播種を行い、表面排水による排水対策を徹底して収量・品質の向上に取り組んでいます。また、地域内で耕作放棄地が発生しないよう農地の受け皿としての役割を果たしているほか、農業者以外にも声をかけて将来のオペレーター候補の発掘と育成を行い、世代交代を図りながら組織を運営していること等も高く評価されました。



農事組合法人上久保営農組合

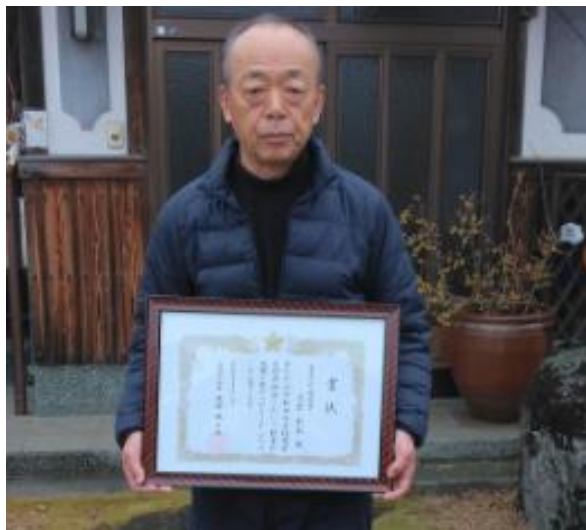
2 管内の動き（トピックス）

令和4年度福岡県麦作共励会で上毛町の荒牧弘敏氏が優秀賞を受賞

上毛町の荒牧弘敏氏が、令和4年度福岡県麦作共励会農家の部で優秀賞を受賞しました。本共励会は、麦の生産振興を図るため、生産技術や経営面に創意工夫を持ち、先進的で他の模範となる経営体を表彰する目的で毎年開催されています。

荒牧氏は、土壌診断に基づく土づくりを行い、適期播種等の基本的な管理作業を徹底することで、毎年高い収量および品質を達成されています。経営面では、地域の集落営農法人が所有する農業機械を利用しコスト低減を図っています。

また、同法人の役員等を積極的に引き受ける等、地域農業の重要な担い手として活躍されていることが評価されました。



受賞した荒牧氏

上毛町の新見修氏が「福岡県農業指導功労者表彰」を受賞

上毛町の新見修氏が、福岡県農業指導功労者表彰を受賞しました。

福岡県農業指導功労者表彰は、農業青年の確保・育成に熱心に取り組み、本県農業の持続的な発展に大きく貢献した農業指導者を表彰し、その功績を讃えるものです。

新見氏は、昭和63年に新規参入により就農し、土地利用型農業に加え作業受託およびライスセンターを運営する経営を行っています。

今回、指導農業士として13年に渡り活躍し、農業高校生、農業大学校学生を農業実習等で受け入れています。また、自らが新規参入者である経験を生かし、町等と連携して就農希望者への相談や助言を行うことで地域農業の発展に貢献したことが評価され、受賞となりました。



受賞した新見氏

吉田牧場が第58回福岡県肉畜共進会国産牛の部で金賞受賞

令和4年9月に開催された第58回福岡県肉畜共進会（福岡県肉畜共進会主催：農林水産祭参加行事）国産牛の部で、豊前市の吉田牧場（吉田努氏）が金賞（福岡県肉畜共進会会長賞、九州農政局長賞、福岡県知事賞）を受賞しました。

この共進会は、年に一度、県内の畜産農家が肉畜の肥育技術と改良増殖の成果を競うもので、肉豚の部、和牛の部およびホルスタイン種・交雑種からなる国産牛の部があります。

吉田牧場は、自家生産牧草、稲WC S、地元産の稲わら、県内で発生する食品製造副産物といった地域資源を飼料として有効に活用しています。さらに和牛の子牛生産にも挑戦し、安全・安心・おいしい牛肉づくりに日々取り組んでいます。



後藤豊前市長に受賞の報告

京築地区青年・女性農業者等意見及び実績発表大会を開催

令和4年度京築地区青年・女性農業者等意見及び実績発表大会を、京築地域農業・農村活性化協議会担い手部会の主催で開催しました。

当日は農業者および関係機関の職員等25名が参加し、青年農業者2名、女性農業者1名による意見発表、京都・築上の各4Hクラブの会長による活動報告を行いました。

意見発表を行った新規就農者達は、就農に至った経緯や就農した当初の課題、農業を行うことへの喜び、将来の展望、そして自身の農業にかける思いを、熱く語っていました。

今後も関係機関と連携し、青年農業者および女性農業者の育成支援を行っていきます。



農業にかける思いを熱く語る青年農業者

2 管内の動き（トピックス）

■ 新たな露地園芸品目の導入に向けて

管内の野菜産地は露地品目が多くを占め、ナバナやレタスといった冬春野菜の栽培が盛んに行われています。しかし、コロナ禍で業務加工用野菜の需要が減少し、価格の低迷等、野菜生産への不安が高まっています。さらに、生産者の高齢化と担い手不足が進んでおり、省力・軽作業化の確立が喫緊の課題となっています。

そこで、一定の収益が見込める「サラサラごんぼ（ゴボウ）」の畝立・播種・マルチ被覆までの機械化体系を試験しました。その結果、慣行と比べて労力を大幅に削減でき、規模拡大が可能となります。

今後は、収穫作業の機械化を進めていく予定で、実際の収量や経営面等の実態を把握し、産地育成に向けた支援を実施していきます。



機械化一貫体系による播種作業

■ 果樹の新規就農者の定着に向けて支援

管内の果樹産地は高齢化が進み、樹園地を手放す生産者が増加しています。普及指導センターでは樹園地が耕作放棄地とならないよう、関係機関と一体となって、離農希望者と栽培希望者のマッチング支援を行っています。また、この取り組みにより就農した果樹の新規生産者が定着できるよう、重点的に支援を行っています。

果樹の栽培管理は手作業が多く技術習得に時間がかかるため、作業適期毎に綿密な技術指導を行いました。さらに、講習会は新規生産者の樹園地で開催し、ベテラン生産者にも指導してもらい体制を整えました。このことにより、今年度から就農したイチジク生産者は病害虫の被害も少なく、無事に初収穫を迎えることができました。今後はさらなる技術レベルの向上を目指すとともに、経営面の指導も継続していきます。



新規生産者へのイチジク栽培講習会

■ホオズキの斑点症状防除の新たな試み

管内のホオズキでは斑点症状による品質低下が問題となっています。斑点症状の原因の一つであるタバコ微斑モザイクウイルス（以下、TMGMV）の防除法として、TMGMVの弱毒株粗汁液（以下、ワクチン）を先に健全なホオズキに接種しておくことで、症状を起こすウイルスを感染できなくする方法が有効とされています。

そこで、令和3年9月にワクチンを接種したホオズキから地下茎を得て、防除効果を検証したところ、斑点症状はほとんど発生せず、収量や着色も問題ありませんでした。

ワクチンの効果は地下茎を通じて常に維持されることから、このホオズキの地下茎を用いて再生産を続けることで、防除効果の持続性が期待できます。今後はこのワクチン株を活用して、高品質ホオズキの生産拡大を図っていきます。

なお、用いたワクチンは、国立研究開発機構農業・食品産業技術総合研究機構から提供を受けたものです。



TMGMVによる斑点症状（左）と健全な葉（右）

3 普及指導員調査研究結果の概要

課題名	結果の概要	部門	担当者
新規就農者の就農計画達成の阻害要因について	目標達成は、経営規模（農地の確保）、技術の習得（生産量の確保）が不可欠であり、情報収集に積極性が不十分、また身近に相談できる相手（親、部会、地域リーダー等）がない場合は、達成が困難な傾向が見られた。	地域	亀田 柳田
就農相談会の参加者数増加に向けた方策の検討について	過去の就農相談会参加者を取りまとめた結果、相談会には管内と同数程度の管外からの参加者も多く、県ホームページ及び市町など広範囲への周知活動が効果的であることが確認された。	地域	谷口
イネカメムシの発生実態の把握と防除方法の検討	管内15地点で定点調査を行いイネカメムシの発生活動の傾向を把握することができた。また、適切な防除時期を検討し、1回防除よりも出穂期+出穂後の2回防除でイネカメムシの発生数を減らせることが確認できた。	水田	太田（吉） 野見山
優良な安定経営に取り組む集落営農組織の要因分析	優良な組織は、地域の祭事や集会で住民に声をかけたり、農地を守る意識の醸成を図っている組織であった。これにより人材が確保され、経営が安定していることが明らかとなった。	水田	山内
キャベツにおけるドローン防除による省力化の検討	キャベツにおけるチョウ目害虫に対するドローン防除の効果は、ブームスプレーヤーとほぼ同等の効果が見られた。また、ドローン防除は作業時間の短縮による省力化が図られた。	野菜	井上
イチゴにおけるハウス環境の実態調査と分析	環境測定装置（farmo）を活用し、高収量者や平均収量者の環境条件を測定するとともに、生育調査を実施した。高収量者は年内の株づくりと厳寒期のハウス内温度およびCO ₂ 濃度が高いことが明らかとなった。	野菜	宇都
地域ブランド「勝山ねぎ」栽培に係る経営実態調査	勝山ねぎ生産者に対して作業内容や作業時間等の聞き取り調査および収量調査を行った。所得300万円を基準とした場合、現状の単収から900kg/10a程度増収する必要がある、特に8月の収量向上対策が重要であると明らかになった。この結果をまとめ、経営指標を作成した。	野菜	安藤
いちじく樹勢強化に向けたネコブセンチュウ防除および堆肥施用効果の検討	いちじく「蓬萊柿」は、日焼けや病害虫、排水不良による根傷み等で樹勢が低下し、収量が減少しているが、堆肥施用により、樹勢が回復することが明らかになった。	果樹	重見
低樹高ジョイント栽培における「秋王」の着果安定技術	かき新品種「秋王」は生理落果が問題となっている。これを抑制するために、環状剥皮幅を5mmから10mmに広げることで、生理落果を抑制することを明らかにした。あわせて、追肥が生理落果を助長することを明らかにした。	果樹	山本
ホオズキの挿し芽苗を用いた施設栽培技術の確立	施設挿し芽苗栽培は慣行栽培に比べ、ほ場占有期間が3か月短縮できた。病害の発生がほとんど無く、切花長も十分に確保され、着果や着色も良好であった。 施設栽培での組み合わせが可能となり、新たな経営類型導入モデルを作成した。	花き	小田
子実用とうもろこしの栽培実態調査	子実用とうもろこしの栽培実態調査の結果、ポイントを抑えた栽培管理により、坪刈収量1t/10aを超えた。一方、排水性が十分ではないほ場では大きく減収した。 子実用とうもろこし単作における損益分岐点は40ha程度となった。	畜産 水田	手島 安武

品目	課題名	結果の概要	設置場所
水稲	被膜崩壊性の高い被覆肥料「Jコート」を用いた水稲の安定栽培技術確立	新規肥料「Jコート2000」の実用性を検討した。新規肥料は既存肥料「エムコート2000」と収量、品質は同等であった。	行橋市
水稲	飼料用米「夢あおば」の増収に向けた施肥の検討	新規肥料「トリプルエムコート2700」の実用性を検討した。新規肥料は既存肥料「ハイエムコート30」と比べ収量の増加が確認できた。	行橋市
大豆	大豆作における帰化アサガオ類の防除体系の確立	トレフアノサイド乳剤の土壌混和をはじめとした体系防除と部分浅耕一工程播種を組み合わせた試験を行った。部分浅耕一工程播種+除草剤の体系防除をした区で、アサガオ類の発生を抑える効果が最も高かった。	みやこ町
麦	ビール大麦新品種「はるさやか」の収量・品質の確保に向けた施肥体系の検討	ビール大麦の収量確保に向け、追肥の施肥量を増減して比較を行った。麦追肥名人を25kg/10aに減らした区で倒伏が見られず、高収量・高品質が確保できた	築上町
麦	麦は場での部分浅耕播種技術による収量向上の検討	播種作業の省力化および収量への影響を検討した。事前耕起をしない一工程播種でも作業性は問題がなく、事前耕起がないため、作業時間が約5割削減できた。また、排水が良好で従来の二工程播種に比べ収量は若干高くなった。	みやこ町
夏秋ナス	夏秋ナスの新規一発肥料の導入検討	追肥作業の省力化による労力軽減を目的として、新規一発肥料「夏秋ナス一発2100」の現地導入性を検証した。慣行の施肥体系と比較して、同等以上の収量が確保でき、追肥作業も大幅に省力化された。	行橋市 上毛町
夏秋ナス	夏秋ナスにおける草勢維持管理方法の検討	高収量を確保できる栽培管理方法を明らかにすることを目的として、高収量者と平均収量者の栽培管理を比較する試験を実施した。高収量者は常に、適切な追肥間隔を維持し、十分量の水分を供給していることが明確になった。	行橋市 みやこ町 上毛町
イチゴ	担い手生産者のイチゴの苗質向上に向けた意識改革	平均収量者の苗づくりの意識改善を目的として、高収量者が育成した苗を平均収量者ほ場に定植し、生育調査を行った。高収量者は、苗の状態がよく、定植後の初期生育も平均収量者より良かった。	豊前市
白ネギ	露地新規補完品目の安定生産技術の検討	露地新規補完品目として白ネギを選定し、収穫物の品質向上を目的として、播種粒数の違いが品質に与える影響について調査を行った。2粒播種区が1本重、莖径ともに最も大きくなり、品質向上に寄与することが明らかになった。	築上町
カキ	「秋王」の灰色かび病対策技術	カキの灰色かび病が発生する一因に、湿った花卉が果実にはりつき低温多湿条件になることがあげられる。ナスで花卉を落とす作用のある資材を試験したが、カキでは落花弁率、灰色かび病発生率ともに有効性が見られなかった。	行橋市
キウイフルーツ	水田転換園における縦穴排水の排水効果の検討	今年度は降雨量が少なく、乾燥が続いたため、試験区間で差が見られず、縦穴排水の排水効果は判然としなかった。	築上町
キウイフルーツ	キウイフルーツ「甘うい」における土壌改良剤の施用効果の検討	有機質肥料「シンボルエース」の施用により土壌硬度が改善された（やわらかくなった）ことから、継続的な施用により土壌物理性の改善効果が期待できると考えられた。	行橋市

4 現地実証・展示ほ結果の概要

品目	課題名	結果の概要	設置場所
ホオズキ	ホオズキへのタバコ微斑モザイクウイルス弱毒株接種による防除効果の確認	タバコ微斑モザイクウイルス弱毒株粗汁液を実生苗に接種し育成した地下茎と慣行地下茎を比較した結果、斑点症状の防除効果が確認できた。	みやこ町 築上町
ケイトウ	シーダーテープによるケイトウの育苗・定植作業の省力化	シーダーテープを用いた直播による育苗・定植作業の省力化を検討した。直播後のかん水管理等に係る時間が増加した。出芽率も低下し、収量、品質ともに低下した。	吉富町
ケイトウ	土壌成分がケイトウの品質に及ぼす影響の調査	土壌成分がケイトウの品質に及ぼす影響を調査した。ケイトウの品質向上のためには、初期生育を十分に確保でき、かつ花を肥大化させない程度の硝酸態窒素が必要であることが分かった。	みやこ町 吉富町
乳牛	「周産期管理および繁殖成績向上技術体系」の実証	乾物摂取量、ボディコンディション、カルシウムコントロール、強肝剤の利用を軸とした周産期管理技術と脂肪酸カルシウム給与による繁殖成績向上を検討した。周産期管理技術は夏季分娩においても一定の効果がみられた。脂肪酸カルシウムの効果は、高乳量維持でみられたが、繁殖成績向上まで至らなかった。	みやこ町

表彰事業名・受賞名	受賞者氏名・組織名（敬称略）	市町村名
公益社団法人大日本農会 令和4年度農事功績者表彰 農事功労者緑白綬有功章	大田 完治	行橋市
第50回（令和3年度） 全国豆類経営改善共励会 大豆 集団の部 農林水産省農産局長賞	農事組合法人上久保営農組合	みやこ町
令和3年度 福岡県大豆作経営改善共進会 集団の部 最優秀賞		
令和4年度 福岡県麦作共励会 農家の部 優秀賞	荒牧 弘敏	上毛町
福岡県農業指導功労者表彰	新見 修	上毛町
第23回福岡県農林水産まつり 農林水産賞（優秀賞）	久松 逸雄	みやこ町
	久保田 茂	豊前市
第58回福岡県肉畜共進会国産牛の部 金賞（福岡県肉畜共進会会長賞、 九州農政局長賞、福岡県知事賞）	吉田牧場（吉田 努）	豊前市
令和4年度 ふくおか6次化商品セレクション 県知事賞	合同会社豊築マルシェモンステラ	築上町
令和4年度 ふくおか6次化商品セレクション 審査委員特別賞	エースいちご株式会社	築上町

※令和4年4月から令和5年2月の期間の表彰事業において表彰を受けた個人および組織

6 参考資料

(1) 令和4年の気象および農業生産の概要

■気象概況

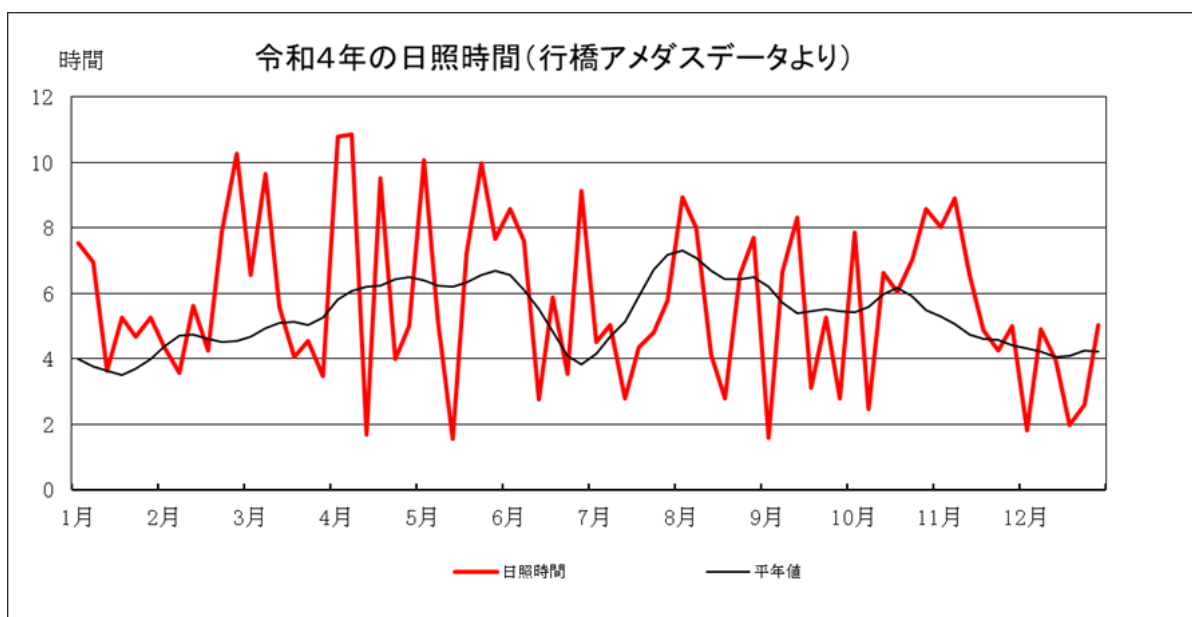
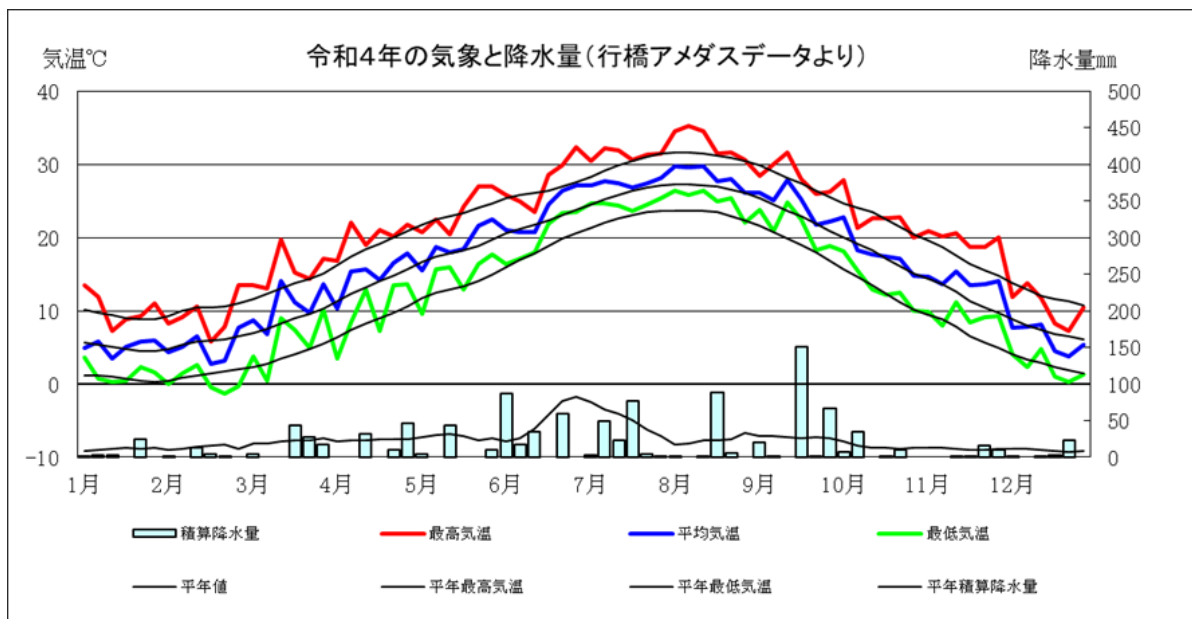
1月と2月の降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多かった。

3月、4月、5月の気温は平年より高く、降水量は平年より少なかった。

6月と7月の気温は平年より高く、降水量は平年よりかなり少なかった。6月の日照時間は平年よりかなり多かった一方、7月の日照時間は平年より少なかった。梅雨入りは6月11日（平年より7日遅い）、梅雨明けは7月22日（平年より3日遅い）となった。

8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少なかった。

9月は台風第11号、台風第14号の影響により降水量は平年より多く、日照時間は平年より少なかった。10月と11月の気温は平年並か平年より高くなった。12月の気温は平年より低く、強い寒気の影響で雪となった。



■主な品目の生産概要

普通作

○ 水稲

早期水稲の移植は4月15日頃から始まり、5月5日頃がピークであった。移植後は高温多照で経過し活着は良好で、平年と比べ草丈はやや長く、茎数はやや多くなった。

出穂期は平年並みで、出穂期以降は高温乾燥で経過し、平年と比べ稈長は長く、穂数は多く、成熟期は早かった。収量は平年よりやや多かったが、白未熟粒や斑点米で品質は低下した。また、イネカメムシによる不稔や斑点米の被害も一部で見られた。

普通期水稲の移植は6月6日頃がピークとなったが、一部地域では用水不足のため移植の遅延が発生し、除草剤の効果低下や薬害も多くなった。移植後は高温少雨で経過し、生育は早く、平年と比べ草丈は長く、茎数は多く、出穂期は早くなった。出穂期以降も高温少雨で経過し、平年と比べ稈長はやや長く、穂数はやや多く、成熟期はやや早くなった。台風14号により一部ほ場で倒伏が発生したが、収量は平年よりやや多かった。品質については、夢つくしでは高温による白未熟粒や斑点米で前年より低下し、元気つくしでは前年に比べ1等米比率は高くなった。

○ 麦（令和4年産）

播種は令和3年11月初旬から始まり、少雨のため作業は順調に進み、12月上旬には全体の89%のほ場で終了し、大豆後作のほ場では播種が遅れたが、12月末までにはほぼ終了した。播種期から分けつ期後半まで気温は平年並み～やや低かったため、生育は平年よりやや遅くなったが、生育初期の湿害は見られなかった。草丈は平年より短く、茎数は平年よりやや多く推移し、茎立ち期は平年並みであった。3月に入ると気温が上昇し、出穂期は平年よりやや早くなった。出穂期以降も高温で推移し、成熟期も平年より早く、穂数は平年よりやや多かった。一部の大麦と小麦が登熟前期の降雨で倒伏し、充実不良が発生したが、収量は大麦・小麦ともに平年より多く、品質は良好であった。硬質小麦のミナミノカロリのタンパク質含有率はJA平均13.1%と前年より高くなった。

○ 大豆

6月23日頃から播種作業が始まり、7月の断続的な降雨により適期の7月20日までに播種できたほ場は全体の68%と少なかった。7月以降の高温少雨により、適期播種できたほ場の生育は順調で、主茎長および最下着莢高は平年より高く、莢数はやや多かった。しかし、9月18日～19日の台風14号の影響により、多くのほ場で倒伏が発生した。収穫は11月9日から始まったが、倒伏や雑草の多発により11月末時点での収穫割合は56%程度にとどまった。また、ウワバ類が多発し葉を食害したため一部ほ場で青立ちが発生した。倒伏やウワバ類の多発、粒肥大期の乾燥により子実肥大が抑制され、収量は平年より低く、大粒比率および1等比率も低下した。

野菜

○ イチゴ

令和3年度の1月の低温および2番果房の着果負担から、1月中旬頃から草勢が低下したほ場が多かった。令和4年度については、4月上中旬に気温が高く、ランナーの発生は例年よりも早かった。炭疽病が7月中旬頃から発生が見られ、7月14日から19日までの降雨による雨水の跳ね返りにより、一部地域で急激に拡大した。定植後は降雨が一定程度あったことから、早期作型・普通作型ともに順調な活着で2番果房は果房間葉数4～5枚と順調な分化となった。

○ レタス

9月上～中旬の台風の影響により5～7型において、苗の生育が悪かった。定植は、8月中旬～9月中旬に降水量が多かったことからほ場準備が遅れ、一部ほ場で定植が遅れた。定植後は9月の大雨でほ場が

6 参考資料

浸水し、苗の水没による根傷みで生育が悪かった。また、10月中旬以降、降雨が少なかったため、生育が抑制され小玉傾向となったが、かん水を十分に行ったほ場では活着が良好で大玉傾向となった。11月以降は気温が高く、日照時間が長かったことから生育が進んだ。

○ スイートコーン

育苗は、一部の作型で、播種後の低温の影響により発芽不良がみられたが、苗の出来上がりは平年並となった。定植は、降雨が少なく、早めのほ場準備やレタス畝後を利用したことから、全作型で順調に行われた。4月～6月にかけて気温が高く、日照時間も長かったため、生育が良好で早期作型から大ぶりであった。

○ 夏秋ナス

定植は4月末頃を中心に行われ、定植後に降雨があったため、活着は順調であった。第1果収穫は6月上旬と平年並みであり、5月中旬の乾燥で発生したアザミウマ類による被害果が散見された。栽培期間を通じて、気温が概ね平年より高かったため、生育は順調であった。しかし、7月下旬～8月上旬の長期乾燥時には、水を確保できないほ場では生育が抑制された。9月18～19日に襲来した台風14号により、多くのほ場が被害を受け、栽培管理を終了した。

果樹

○ イチジク

生育期の乾燥により、カリウム欠乏による葉の黄化や落葉が発生した。果実が小玉となったことと併せて、収穫ピーク時の降雨によるかびの発生や高温による着色不良果の発生で、出荷量は前年より少なくなった。

○ モモ

開花は前年より遅れたものの平年より3日程度早かった。生育期の少雨の影響により果実肥大が抑制され出荷前半は小玉だったものの、徐々に回復して出荷後半は平年並の肥大となった。病害虫では、7月上旬以降にハダニが多発した。

○ キウイフルーツ

キウイフルーツ：生育期（5月下旬）や台風の強風によりキズ果が多く発生した。また、台風14号の強風により早期落葉した園では糖度低下等品質が低下した。病害虫ではカイガラムシの発生が多かった。

○ ナシ

前年と比べ、着果量は多く、乾燥傾向により小玉であった一方、高糖度で推移した。赤星病、黒星病の発生は少なかった。

○ ユズ

生育は樹ごとによりばらつきが非常に大きく、全体的に裏年に当たり収穫量は少ない。一部園地でハダニの発生および訪花昆虫による傷果が発生した。

○ カキ

前年と比べ、着果量は多く、高糖度で推移した。「秋王」においては7月に生理落果が見られたほか、灰色かび病により3割程度の果実で等級が下落した。炭そ病、カイガラムシ類等の被害は少ないが、一部園地でカメムシの被害が発生した。また、台風14号による枝折れが一部園地で発生した。

花き

○ ホオズキ

芽出しは2月下旬から始まり、3月下旬には完了した。発芽揃いは高冷地で若干のバラツキがあったが、全体的に発芽揃いは良好であった。

5～6月の開花期中の高日照により実飛びは少なかった。継続的な降雨が少なかったが、生育初期から畝間かん水等を実施し、十分な草丈確保に努めた。

着色はエスレル散布前の摘芯処理や、土壌水分を保持した状態でのエスレル散布を行い、エスレル散布後の着色は良好であった。

○ キク

8月出しの露地キクについては、高日照により白さび病の発生も少なく順調に生育した。

秋出しの露地キクでは、台風14号やその後の大雨による冠水等で、品質が低下したほ場もあった。

○ ケイトウ

J A共同育苗により良質苗が供給された。8月出し作型は2回に分けて播種し、2週間で定植可能な苗となった。定植は5月下旬から6月上旬にかけて行われたが、本年は継続的な降雨が少なく、ほぼ毎日、かん水が必要となった。かん水が不足したほ場では生育が遅れ、収穫時の草丈が低くなった。

6月末～7月中旬までは平年と比較して高温であったが、日照時間が平年並みで、生育の大幅な前進化は見られず、収穫時期は7月下旬の販売需要期と重なった。

○ シンテッポウユリ

J A共同育苗において、例年通り1月中旬に播種が行われたが、2月の低温や、育苗施設の老朽化といった原因が重なり、定植可能な苗の供給が困難となった。その後の生育は他地域と比較して約2週間程度遅れた。

8月需要期には草丈が50～70cmとばらつき、輪数は1～2輪と少なく、本年は出荷が困難となった。

畜産

○ 酪農

酪農家戸数が14戸から13戸に減少し、飼養頭数が減少したため、生乳生産量は前年より減少した。

○ 自給飼料

イタリアンライグラス：3月～4月の気温が高く、収量は平年並みであった。収穫時期に好天に恵まれ、品質は良好であった。

WCS用稲：病虫害が少なく十分な収量を得られた。

6 参考資料

(2) 現地活動情報一覧

No.	情報テーマ	作成月日
1	キウイ春季管理講習会	4月13日
2	京築大規模土地利用型農業研究会の総会が開催されました	5月19日
3	イチゴの現地育苗管理講習会を開催	5月20日
4	新田原果樹部会の総会開催	5月23日
5	スイートコーン販売促進活動	6月 1日
6	秋王環状剥皮講習会	6月 7日
7	ハウスいちじく「蓬莱柿」出荷が本格化	6月 9日
8	農事組合法人 上久保営農組合が第50回（令和3年度）全国豆類経営改善共励会で農林水産省農産局長賞を受賞	6月22日
9	大豆の播種前講習会を開催	6月22日
10	苅田小学校で小学生が大豆について学ぶ	6月28日
11	築上町農福連携情報交換会が開催されました	6月30日
12	イチゴ栽培研修会を開催	6月30日
13	夏秋ナスの現地栽培管理講習会を開催！	7月 1日
14	営農基礎講座を開催	8月25日
15	福岡県新規就農・就業相談会 i n 京築を開催！	8月25日
16	京築大規模土地利用型農業研究会の研修が開催されました	8月31日
17	「子実用とうもろこし」に手ごたえあり！	9月21日
18	築上町白ネギ調製作業実演会が開催されました	10月17日
19	新田原果樹部会が法人化後の労務管理について学ぶ	10月25日
20	上毛町の4小学校に柿の出張講座	10月26日
21	麦類の安定生産に向けて	10月26日
22	イチゴの環境モニタリング研修会を開催	10月26日
23	京築地区青年・女性農業者等意見及び実績発表大会を開催	11月 9日
24	新田原果樹部会が担い手講習会を開催	11月14日

No.	情報テーマ	作成月日
25	夏秋なす部会生産反省会を開催！	11月17日
26	新たな露地園芸品目の導入に向けて	11月22日
27	上毛町の荒牧氏が令和4年度福岡県麦作共励会で優秀賞を受賞	11月24日
28	みやこ町の農事組合法人 上久保営農組合が第50回（令和3年度）全国豆類経営改善共励会の受賞講演	11月24日
29	令和4年度農業経営セミナーを開催	11月25日
30	大規模土地利用型農業研究会が秋田県の先進地を視察 ～この厳しい情勢に打ち勝つために～	12月 1日
31	新規就農者のつどいを開催	12月 8日
32	県北ブロック農業青年技術交換大会を開催！	12月19日
33	ホオズキのタバコ微斑モザイクウイルスに対する取り組み	12月27日
34	集落営農組織の人材育成研修会を開催 ～人材の確保・育成について学ぶ～	2月 2日
35	京築大規模土地利用型農業研修会の会員相互視察を開催 ～身近な農業者の創意工夫について学ぶ～	2月24日

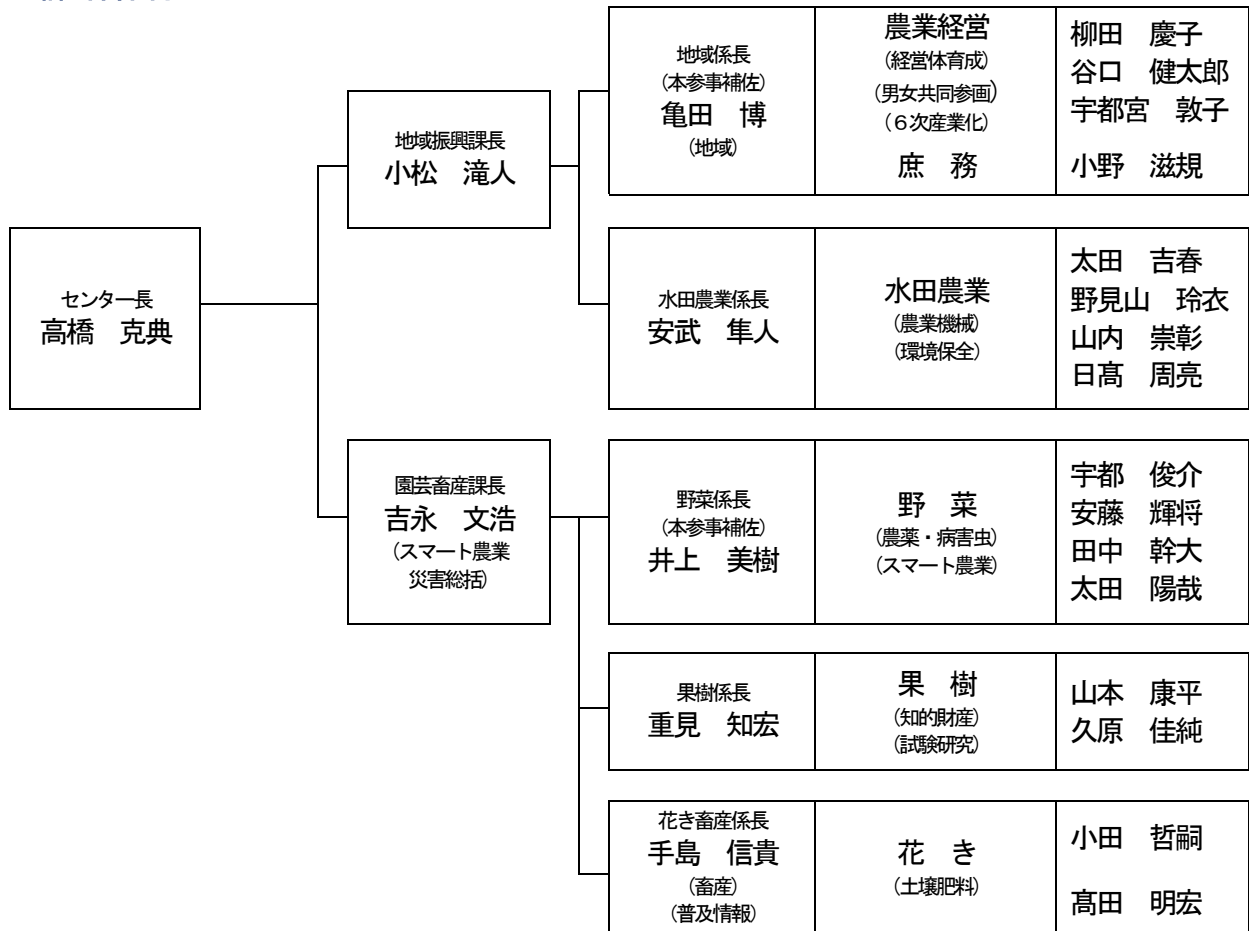
内容は、福岡県ホームページ「令和4年度京築普及指導センター活動情報」から閲覧できます。

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/4keichiku-katudo-joho.html>

6 参考資料

(3) 普及指導センターの活動体制

■課・係体制



■班活動の体制

○プロジェクト班

担い手確保・育成推進班	総括：小松 推進員：亀田 班員：柳田、谷口、宇都宮、安武、井上、重見、手島
築上町推進班	総括：吉永 推進員：安藤 班員：亀田、山内、山本、小田

○センター内運営事項における推進班

担い手育成推進班	総括：小松 推進員：亀田 班員：谷口、日高、田中、山本、高田
普及情報推進班	総括：吉永 推進員：手島 班員：柳田、野見山、太田（陽）、久原
経営体育成推進班	総括：小松 推進員：柳田 班員：吉永、亀田、安武、井上、重見、手島
環境保全・食の安全推進班	総括：吉永 推進員：太田（吉） 班員：山内、宇都、久原

○市町連絡会議等担当班

市町名	課長	地域係	各係・部門
行橋市	小松	柳田	必要に応じ、市町連絡会議等の 会議へ参加
豊前市	吉永	谷口	
荏田町	小松	亀田	
みやこ町	吉永	柳田	
吉富町	吉永	谷口	
上毛町	吉永	谷口	
築上町	吉永	亀田	

■普及指導センター職員



宇都宮

高田

田中 扇 小野 久原 重見 山本 野見山 井上 宇都 吉永 太田(陽) 太田(吉) 高橋 山内 小松 安藤 柳田 亀田 小田 日高 安武 谷口 手島

福岡県行政資料

分類番号 PA	所属コード 4703605
登録年度 04	登録番号 0001



福岡県行橋農林事務所 京築普及指導センター

〒824-0005 福岡県行橋市中央一丁目2番1号

TEL (0930) 23-4215 / FAX (0930) 23-8290

URL <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4705401.html>

E-mail keichiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp